

自ら出会い、自ら学ぶ。 「人が育つ大学」と呼ばれる理由があります。

夢をもって自主的に学び、互いに力をあわせ、競いあい、高めあっていく、これが滋賀県立大学の学風です。

この風土を培っている大きな特色が教育課程にあります。幅広い知識、教養を身につける全学共通科目と一年次から学べる専門科目、そして全学部生が履修できる副専攻科目で構成されています。



※副専攻は、地域基礎科目（全学共通科目）、地域志向専門科目（専門科目）と合わせて本学独自の地域教育プログラムを構成します。

学ぶ力を身につける、少人数教育。

特色のひとつである「人間学」は、自分自身や人間と社会を深く見つけ、人間性ゆたかな生き方を探る力の習得を目的とした科目群です。問題や課題を自ら見つけ、解決するためのなにかを創造していくには、思考を他者に伝え、他者の考えを理解する能力が欠かせません。自己表現や多様性に対応できるコミュニケーション、発信力や共感力、批判し合える関係づくりを身につけるために、1年次前期は「人間探求学」を必修科目とし、学科ごとに5、6名のグループに分けて対話型の少人数教育を実施。学びの基礎となる能力の養成から始めます。



全学共通科目 幅広い視野を身につける

全ての学生に必要なとされる幅広い視野を養うとともに、豊かな人間性や国際的なコミュニケーション能力の向上をはかり、自主的な勉学意欲を引き出すことを目的としています。

■人間学

「人間探求学」を1年次前期の必修科目に指定しています。それ以外は選択必修科目となっていて、「こころ」「しくみ」「しぜん」「わざ」という4つに分類されています。人間と社会を深く見つけ、人間性ゆたかな生き方を探る人間学は4年間いつでも受講可能です。



■全学共通基礎科目

外国語教育（英語と第二外国語）、社会で必須となる情報処理教育、健康に対する知識と体力を養う健康・体力科学教育の3つの分野で構成しています。

■地域基礎科目

1年次前期の必修科目の「地域共生論」と選択必修科目の「地域コミュニケーション論」などにおいて、地域教育プログラムにおける基礎的な能力を養います。

専門科目 1年次から学べる専門教育

本学では、一般教育科目を終えてから専門科目に進むという考え方を改め、各学部の目的に沿った個性的な教育を実現するために1年次から専門科目の講義を受講できるようにしました。

副専攻科目 地域に学び貢献する独自のカリキュラム

近江楽士（地域学）：地域で学び、活動する基礎となるのは、自ら関係を創り出し、フィールドで考える能力です。本副専攻では「コミュニケーション力」「行動力」「問題解決力」の3つの要素からなる「ネットワーク力・起業力」の習得を主眼としています。

近江環人 地域再生学座（大学院、社会人）：近江学士（地域学）副専攻の上位カリキュラム。県立大学大学院生だけでなく、行政、企業、NPOなどそれぞれの立場で地域再生のリーダーとなる資質を有した人材として「近江環人（コミュニティ・アーキテクト）」を育成し、地域のニーズに応えることを目的としています。

滋賀県立大学は、「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに、「地域に根差し、地域に学び、地域に貢献する、人が育つ総合大学」として1995年、彦根に開学しました。

琵琶湖の東、湖岸の近くに、北に伊吹山系、東に鈴鹿山系、西には琵琶湖の向こうに比良山系を望む雄大な景観を背景にして、滋賀県立大学はあります。自然環境に恵まれた大学のキャンパスには、琵琶湖からの清らかな水が流れる環状のお濠（環濠）があり、その周りに大学のシンボルであるえんぴつ塔をはじめ、すべての学舎が行んでいます。

学部は、環境科学部、工学部、人間文化学部、および、人間看護学部の4学部（13学科）、また、大学院は、それぞれの学部に対応した4研究科（9専攻）で構成され、人文科学、社会科学から自然科学までを学ぶことができる総合大学です。それぞれの分野で世に知られた教員の指導のもと、2,800余名の学生・院生が、互いに切磋琢磨して学んでいます。

本学の学びには、右に示すような特徴があります。

これらの学びは、卒業後の長い人生の礎となります。皆さんも、本学で特徴ある学びを自分のものしてください。

滋賀県立大学理事長・学長 廣川 能嗣

1951年京都府生まれ。京都大学大学院工学研究科高分子化学専攻博士課程単位取得退学。工学博士。専門は機能性高分子、高分子ゲル科学。[Volume Phase Transition in a Non-ionic Gel]、[機能性ゲルとその応用]など著書・論文多数。

- ① 一人ひとりの学生・院生の顔が見える学び
教員一人に学生が数人の少人数での学び
豊かな教養と人間性を育む人間学・地域基礎科目の学び
- ② お互いを高め合う学び
グループワークなど多彩な手法による多角的・多面的視点の学び
基礎の重視と1年次からの専門の学び
学生の自主活動「近江楽座」での地域の人々との学び
- ③ 多様な学び
フィールドワーク・実習・実験など、事実とデータに基づく実践的な学び
短期・長期の海外留学で国際感覚をみがく学び
副専攻（近江楽士、近江環人）での地域に関する実践的な学び

学びも経験という価値に変える。



環境科学部

「環境フィールドワーク」

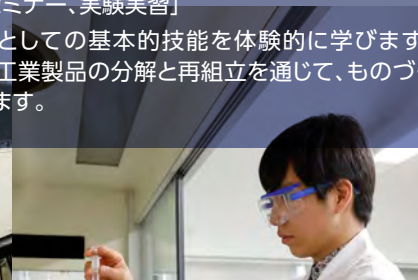
実際の地域環境問題が起きているフィールドに足を運び、調査・解析とプレゼンテーションに必要な能力を身につけます。



工学部

「工学セミナー、実験実習」

技術者としての基本的技能を体験的に学びます。例えば、身近な工業製品の分解と再組立を通じて、ものづくりの基本を学びます。



人間文化学部

「琵琶湖文化論実習」

1年次を対象に、滋賀の歴史、文化、生活を学ぶ実習で、テーマ別に班編成をし、調査から報告書の作成手法まで学びます。



人間看護学部

「臨地実習（全13科目）」

医療・保健・福祉の現場での実習を通して看護援助の基礎的な実践能力を身につけ、かつ人との出会いやふれあいを通して豊かな人間性を育みます。



未来志向の変革力で 地域に貢献できる “人財”となる。

目まぐるしく変わり続ける時代を生き抜き、地域社会に貢献していくには、どんな能力が必要でしょうか。滋賀県立大学はひとつの回答として、地域教育プログラムを整備・体系化しました。現実の社会に起こる様々な問題に取り組み、創造的に変革する能力と態度を養うための学習です。地域の現場に飛び込んで、生きた課題と向き合い、大学での学びを活かす。実践することにより本当の「能力」になるからです。

滋賀県立大学独自の地域教育プログラムは、文部科学省による「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」(平成25年度)、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」(平成27年度)の採択という形で評価されています。これらの事業の担い手として、関係自治体などとの連携のもと、少子高齢化や若者人口減少に起因する様々な地域課題に対し、教育、研究、社会貢献の観点から解決に取り組んでいます。

文部科学省
地(知)の拠点

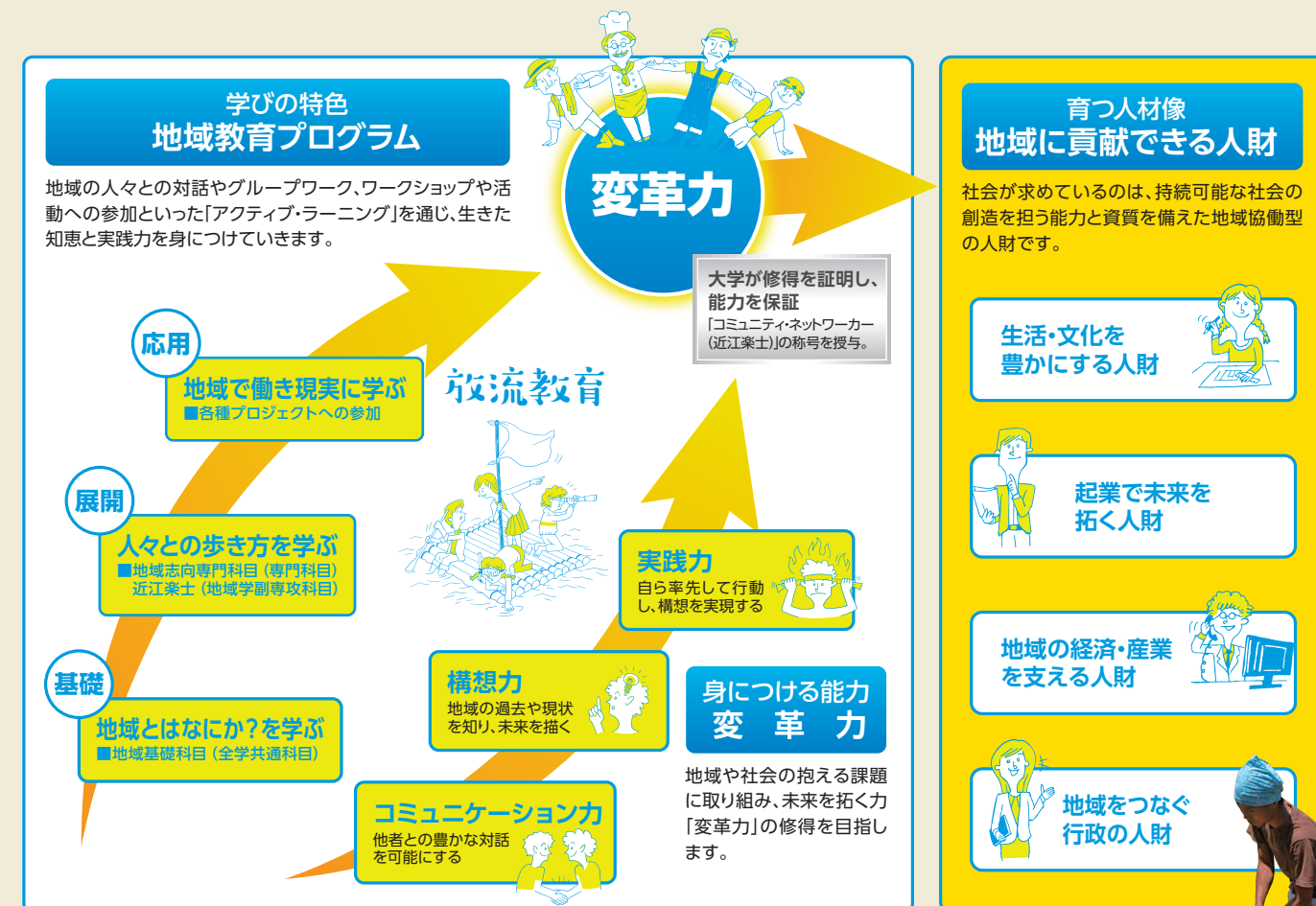
本学は、文部科学省の補助を受け、平成25年度から29年度まで「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」を、また、平成27年度より「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)」に取り組み、大学が自治体や企業等と協働して、教育カリキュラムを改革して地域が求める人材を養成し、地域の雇用拡大と若者の地元定着を図っています。

COC+事業では、COC事業で取り組んできた地域志向教育を中心とする教育プログラムの改革とその定着をさらに進めるとともに、県内の5つの大学や自治体・企業等と協働し、地域の雇用創出や学卒者の地元定着率の向上に取り組んでいます。

これまでの取組の結果、教育プログラムの連携や中期インターンシップの実施等における成果が既にみられています。今後も引き続き、地域教育プログラムの質を高めるとともに、地域企業での中期インターンシップ等の取組をより一層推進し、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目指していきます。

併せて、本学では、平成30年度よりSDGs拠点大学を目指し、SDGsの地域への普及や活動を促進する数々の取組を行っています。

▲「学長とSDGsを語る！」ランチミーティングの様様



地域活性化の期待を背負う協働の取り組み スチューデントファーム「近江楽座」

社会へ根づいていく地域活性化プロジェクトを募集し、審査を経て採択されたプランの調査、研究、活動等経費を助成する仕組みです。2004年度の文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に採択され、毎年約20チーム、述べ400人を超える学生がさまざまな地域で活動しています。過去14年間で300を超えるプロジェクトが成果を残してきました。限界集落保存、農業や環境生態系問題、伝統文化財保存、地場産業支援、高齢者・障がい者問題、商店街活性化、移住定住促進、エネルギー・ゴミ問題など、テーマは多岐にわたります。東日本大震災やフィリピン・レイテ島の災害では多くの学生が支援活動に赴きました。活動は授業ではなく、すべて学生自身が主体的に進めています。活動を全面的に支援することが大学の役割です。大学発地域貢献の先進的な取り組みとして内外で高く評価されています。



座・沖島(春の大祭)

滋賀県大生生物研究会
(外来魚駆除作業)

男鬼楽座(民家の茅葺き作業)

とよさくらだ(田植え作業)

BAMBOO HOUSE PROJECT(竹の庭製作作業)

政所茶レン茶(伝統的茶摘み作業)

世界の地域と社会で学ぶ。

琵琶湖というキャンパスで学んだ地域や社会への貢献を世界でも実践できるように、国際交流を支援しています。
本学からの助成金あるいは授業料減免制度の対象となる交換留学生をはじめ、様々な交流プログラムを通じてグローバルな視野の拡大をはかり、地球市民としての観点から、日本はもとより様々な国と地域の発展と進歩に貢献できる人材に育つことを願っています。



留学制度の紹介

交換留学 交換留学先は右の表 (P10) の25大学です。大学同士の交流協定に基づいて、相互に学生を派遣・受入する制度です。期間は基本的に半年～1年間で、学内での選考により派遣学生が決定されます。派遣先の授業料の納付が不要で、本学からの助成金あるいは授業料減免制度の対象です。

認定留学 提携大学以外 (協定を結んでいない大学) で、提携大学への留学と同等以上の効果が期待できると学長が認定した大学等 (認定大学) への留学をいいます。交換留学同様本学での在籍状況は「留学」扱いとなり、留学先で得た単位が本学での審議により認められることが可能ですが、出願、入学手続きは自分で行い、費用も全て自分で支払います。本学からの助成金あるいは授業料減免制度の対象です。

人間学「異文化理解」 滋賀県立大学の人間学科目「異文化理解」を履修し、長期休暇を利用した3週間の海外研修です。アメリカでの「異文化理解A」と中国での「異文化理解B」があります。

派遣留学 国際コミュニケーション学科独自の制度で、派遣留学協定締結校へ4ヵ月から1年間留学するものです。2018年4月時点の留学先は、アメリカのランシングコミュニティカレッジ、スカジットバレーカレッジ、オリンピックカレッジ、エベレットコミュニティカレッジ、ポートランド州立大学、イギリスのリーズ大学、カナダのビクトリア大学、ニュージーランドのオークランド大学です。交換留学と異なり、留学先大学での授業料を支払う必要があります。本学からの助成金あるいは授業料減免制度の対象です。

短期海外研修 夏期や春期の長期休業期間中を利用した約1ヵ月の留学です。具体的な留学先は決まっておらず、自分で海外の大学で実施している3週間程度のプログラムを探し、留学します。

留学助成金と単位認定

留学の形態により、本学より奨学金または授業料の一部が留学助成金として支給されます。また留学先で取得した単位を本学の単位として認定でき、学部によっては卒業要件に組み込むことも可能です。履修科目によって本学の授業科目と読替えることも可能です。

●JCMU英語プログラム

JCMU (The Japan Center for Michigan Universities) とは、ミシガン州立大学連合日本センターの略称で彦根市松原町にあります。JCMUではアメリカ・ミシガン州内にある15の州立大学等に在籍する留学生を対象とした日本語・日本文化プログラムや、ネイティブ講師による英語プログラム、公開講座などを実施しています。英語集中コース、テーマ別コースなど自分のスキルに応じてコースを選ぶことが可能です。

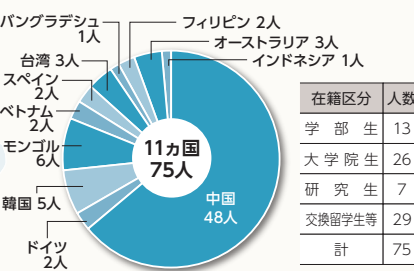


交換留学協定大学一覧

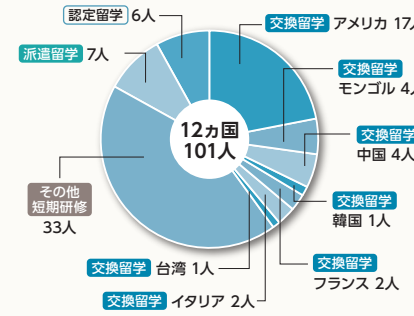
国名	大学名
アメリカ	ミシガン州立大学連合
	カリフォルニア州立大学モントレーベイ校
	オーバーン大学モンゴメリー校
	アルマカレッジ
	コロンビアカレッジ
	マウントセントメリーズ大学
イギリス	ミッドミシガンコミュニティカレッジ
	ヨークセントジョン大学
イタリア	ペルージャ外国人大学
スペイン	セヴィーリヤ大学
ドイツ	アウクスブルク大学
オーストラリア	シドニー工科大学
フランス	リール政治学院
	オルレアン大学
韓国	光云大学
	江原大学
台湾	中興大学
中国	海南大学
	青海民族大学
	内モンゴル民族大学
	湖南師範大学
	湖南農業大学
	中南大学
モンゴル	モンゴル国立大学
フィリピン	サンカルロス大学

留学生数

海外から県大へ (2018年4月現在)



県大から海外へ (2017年度実績)





社会に出て通用する変革力とは？人財とは？

自動車から科学分野まで、
機器の開発・設計を通じて世のなかの課題を解決

■ 株式会社 堀場製作所 カスタム製品開発部 ■

2003年度 工学部機械システム工学科卒業
2005年度 工学研究科機械システム工学専攻修了

河関 (旧姓 吉村) 紗矢香 さん

略歴：
2006年、株式会社堀場製作所入社。自動車排ガス計測機器の開発に従事。2011年、カリフォルニア州立大学アーバイン校 (University of California, Irvine) に1年間業務研修。プラグインハイブリッド車の排ガス測定について研究。帰国後、2年間自動車メーカーに外向。本社に戻りシステムソリューション部レギュレトリーテストングアプリケーションチーム立ち上げに参加し、びわこ工場を経て、現在は東京セールスオフィス勤務。カスタム製品開発を手掛ける。

堀場製作所を知ったのは大学院時代。米国でのハリケーン被害を契機に、異常気象と地球温暖化との関係などについて議論が活発化していたころでした。大学で学んだ工学のスキルを環境分野で活かさないかと考えていたところ、就職担当の三好先生から紹介いただいたのがこの会社です。「おもしろおかしく」という社是に惹かれ、2006年に機械設計担当として入社しました。

2年間は本社でのOJTを通じて基礎技術を習得し、3年目に自動車計測部を志望しました。自動車から出る排ガスを計測する装置を開発しており、地球温暖化やエネルギー問題に貢献できると考えたからです。当時はお客様の要望が多様化し始めた頃であり、次の10年20年を見据え、長く使える装置をつくるのが開発テーマとなっていました。排ガス規制の強化により、新たな排ガス試験などへの対応を目指すオプションを設計することが役割のひとつでした。

入社5年目は業務研修で1年間UCIへ。主にプラグインハイブリッド車から出てくる排ガスの測定に

ついて研究を進めました。研究室の4割はアメリカ人、その他は各国からの留学生、英語によるコミュニケーションには苦労しましたが、目的を共有していることから次第に協働が進むようになりました。帰国後は自動車メーカーへ外向。お客様の排ガス測定設備の更新や、改訂される法規に合わせた設備導入を担当させていただきました。

また、近年は排ガスに関する試験法などの流れが変わり、外向から戻った時には、会社としても社会の流れに応じた対応が必要でした。もともと多品種少量生産が主流のため、担当者が法規や試験法を把握していましたが、新たに法規制を整理し、検証する部署ができ、そちらへ異動に。留学や外向を通じて環境計測と社会との深い関わりを実感していたことが役に立ったと考えています。現在は結婚を機に東京へ移住し、職場もこちらへ移していただきました。お客様の声を聞きながら、科学分野の装置開発や機械設計の担当として勤務しています。

開発や設計、法規、また海外留学、外向と、自分の可能性を試せる様々なチャンスを会社からいただいていたと感じています。どんな分野の仕事でも自分が興味を持てれば力を発揮できます。会社もそれを知っており、なにより私自身が県大で学び、実感してきたことです。

いまでも学籍番号と名前を記した機械設計製図便覧を開くことがあります。世の中で役に立つ大事な内容が書かれていたのだと、いまになって分かることがたびたびです。会社に入ると勉強する時間は取

りにくくなるし、専門はさらに難しくなります。しかし、県大で基本をしっかりと培ったからこそ乗り越えてくることができたのだと考えています。

県大へ来るなら、やりたいことを見つけて実行してみてください。必ず先生方がバックアップしてください。その経験を通じてあなた自身が学びや成長に向かうサイクルを身につける。この大学の値打ちはそこにあります。もちろん勉強だけではなく、私が合気道部や「湖風祭」実行委員会で生涯の友を見つけたように、かけがえのない出会いも待っています。ぜひ県大で長い人生を支えるための幹を太くしてください。



- 電子線技術と光技術を融合した結晶欠陥検出イメージング装置。
- 入社以来開発に携わった自動車産業向けのエンジン排ガス測定装置。堀場製作所の製品はワールドワイドで8割のシェアを占めている。
- 参加しているダイバーシティ推進専任組織「スタンドグラスプロジェクト推進室」のロゴマーク。

興味があることを大学で学びながら、大学の外に教材を見つけて実践する、そこで得た知識を研究にフィードバックし、さらに学ぶ。大学と地域の壁を越えて自らを磨いていくことが放流教育の真価です。色んな分野で活躍する先輩に、いまの仕事と県大生活の関係について語ってもらいました。

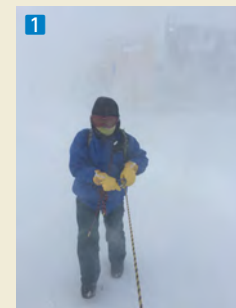
気象の分野で地域の安心・安全と地球の未来を支える

■ 気象庁観測部計画課 ■

2007年度 環境科学部環境生態学科卒業
2009年度 名古屋大学大学院環境学研究科気候科学講座修士課程修了

槇山 恵子 さん

略歴：
2010年、気象庁に入庁。沖縄県的那覇や石垣島の気象台勤務を経て2014年に本庁 (東京) へ。地球環境・海洋部、オゾン層情報センターに勤務し、2015年末から2017年3月まで第57次日本南極地域観測隊に参加。帰国後、観測部計画課で気象庁の国際的な活動を支えている。



中学生のころから理科が好きで、星座の観察や天気図の見方を覚えることが楽しみでした。興味はやがて地球環境へ。京都議定書が採択され、温暖化への取り組みをはじめ地球規模での環境保護が目玉とされた時期です。

受験の時期になり、環境系の学部を探していたところ、出会ったのが滋賀県立大学です。理科のエキスパートにならなければと思っていた私にとって、物理や生物、化学、地学などすべてが網羅されたカリキュラムをはじめ、充実したフィールドワークや少人数制など、理想的な環境でした。環境生態学科の学修領域は自然から生活まで多方面にわたっており、色々な立場から学ぶことができました。フィールドワークでは、地域の方からの聞き取りや、荒れた水田の再生に向けた調査を行い、人文や社会学系の学びを得られたことも大きな財産になっています。

進路を気象庁に定めたのは、授業の一環で彦根地方気象台を見学したことがきっかけです。刻一刻と変わる観測データと天気図をもとに、予報を発表する。気象を仕事にするとこういうことなのだと、心が大きく動いたのです。倉茂先生から気象学を



学べたことも幸運でした。単位を取った後も再度受講したほどです。

気象庁に入庁してから4年間は沖縄県的那覇や石垣島の気象台に勤務しました。観測と予報の二本柱でチームを組み、その地方の天気予報を発表します。気温、雨、風など多くの気象要素が自動で観測される一方、目視で雲の動きや種類を判別することも重要な仕事でした。天気予報や注意報・警報の発表のほか、桜の開花など、生物や季節に関するお知らせも仕事のひとつで、シーズンになると毎日のように定点の桜を観察していました。

本庁勤務となって1年、念願の南極地域観測隊越冬隊員に選ばれ、およそ1年2ヵ月を昭和基地で過ごしました。日本国内と同様の地上気象観測に加え、成層圏までの高層大気の観測やオゾンの観測も行います。高層気象観測では、ブリザードのなか、センサーをつけた気球を飛ばすため危険を伴いますし、1年のうち約2ヵ月は太陽の昇らない極夜です。日本とは生活環境が大きく異なるうえ、1年以上日本に帰れません。過酷な状況であっても、一緒に生活する29人の隊員と助け合いながら、楽しく、快適に過ごすことができました。

帰国後は全国から集約される観測データの品質管理に関わり、現在は、国内だけでなく世界の気象機関と気象庁の連携を支援することが主な仕事です。気象庁の仕事は多岐にわたり、勉強は続きますが、常に次のことを考える姿勢や、

- ブリザードの中を移動した際の様子。
- 第57次越冬隊 30名。
- 気象庁内の予報現業室。全国の気象状況を監視しながら天気予報を作成、発表する。
- 越冬最終日。この翌日、約14ヵ月ぶりに「南極観測船しらせ」に帰艦する。
- 高層気象観測。最大風速20.1m/sの中、ラジオゾンデを飛ばす瞬間の様子。
- 気象庁内の気象科学館に展示してあるラジオゾンデと気球。



努力して道を拓くという生き方を培ってくれたのは県大です。県大は入学してからの選択肢が多く、それだけ自分の可能性を見出すチャンスがあります。

自分が選んだ道ならやっていたいはず。失敗したら、そこから学べばいい。でも、挑戦もせずに逃げたら後悔しか残りません。受験に限らず、そこがいちばん大事だと思います。皆さんも県大で本当にやりたいことを見つけてください。

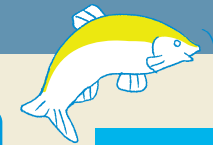


人生の目標をじっくり見つけてください。

いまはまだ将来の夢を描けていないとしても、大学生活を通して多彩な経験を積んでいけば、理想とする自分が見えてくるはず。与えられた時間は同じでも、学生生活の密度は過ごし方によって濃くも薄くもなります。滋賀県立大学での4年間、あるいは大学院を通じて何が学べるのか、まず確かめ、そして目標をつくり、実現に向かって行動してください。ますます複雑化していくこれからの社会において、キャリアの設計・形成は、さまざまな学問領域にまたがる課題ですが、地域社会で活躍できる知と実践力の修得を、本学独自のキャリア育成プログラムでしっかりサポートします。



目標 変革力



就職・大学院進学

大学生のキャリアデザイン

目標 実践力

4年次

■地域デザイン
■各学部・学科での卒業論文・卒業制作

卒業に向けた取り組み



社会人基礎力をつける
地域教育プログラム・人間学
フィールドワーク・実習



自分を知る
価値観、行動特性
興味、関心、能力



目標に向けて学ぶ
基礎科目・専門科目
インターンシップ/クラブ・サークル
異文化理解/ボランティア
アルバイト etc



社会を知る
社会・経済情勢
業種・職種・企業

3年次

■地域デザイン
■地域志向専門科目

「地域実践学実習」を通して、地域活動にお各学部の専門選択科目で、地域活動を展開する上

ける実践的スキルを習得
で必要な専門的知識・スキルを習得

2年次

■システム思考法
■問題解決デザイン論
■地域志向専門科目 (各学部学科の専門科目であり、副専攻要件には含まない)

実習を通して視野を広げ、自己を発見・確認する

目標 コミュニケーション力

1年次

■地域コミュニケーション論
■地域共生論 ■地域診断法 ■地域課題科目

基礎科目で基本的なスキルや教養を身につける

「地元学入門」や「地域探求学」などを受講し、地域に学ぶための基礎的理論や手法を習得



平成27年度に文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に選定され、「びわ湖ナレッジ・commons+ 地と知で拓く滋賀の創生～」への取組が始まりました。この事業は、県内6大学、滋賀県および県内産業界等が協働して、滋賀県における雇用創出と若者定着を通して滋賀の創生を図ることを目的としています。そのために、本学では、学生の地元定着への意識向上を図るため、地域教育プログラムの地元志向深化を進めています。県内5大学では、本学のCOC+への取組成果を活用しつつ、それぞれの特色を踏まえた地元志向教育を展開しています。また、地元就職率の向上や雇用創出に向けては、関係大学・機関が連携し、インターンシップをはじめとした取組を効果的に進めています。

主なキャリアサポート

就職スケジュール

キャリア教育

就職セミナー

学生支援室

1年次・2年次

考えるための道具 (2単位) (4月～8月)
キャリアデザイン (2単位) (4月～8月)
地域産業・企業から学ぶ社長講話 (2単位) (10月～3月)
キャリアデザイン特講 (2単位) (10月～3月)



就職セミナー (5月～2月)



インターンシップ事前マナー研修 (7月)

3年次 (院1回生)

インターンシップガイダンス (4月)
インターンシップ事前研修 I・II (7月)

就活準備スタートセミナー (5月) ■就職活動本番準備セミナー (10月)
自由応募型インターンシップセミナー (5月) ■業界研究セミナー (応用編) (10月)
自己分析講座 (6月) ■ES対策セミナーと模擬テスト (11月)
筆記試験対策 (6月) ■全国一斉WEB模擬試験 (11月)
業界研究セミナー (基礎編) (7月) ■冬のインターンシップの選び方 (11月)

公務員試験対策講座ガイダンス (4月) ■就職・進路相談 (随時)
公務員試験対策講座 (5月～3月) ■模擬面接 (随時)

インターンシップ (就業体験) (8月～9月)
インターンシップ報告会 (10月)

ビジネスマナー講座 (12月) ■直前対策セミナー (2月)
面接対策とGD対策 (12月) ■学内企業研究会 (3月)
学内業界研究会事前説明会 (12月)
学内業界研究会 (1月)

公務員採用試験説明会 (採用スケジュールに応じて実施)

4年次 (院2回生)

公務員試験願書提出 (4月) ■企業の選考開始 (6月)
国家公務員総合職採用試験 (4月) ■正式内定日 (10月)
国家公務員一般職採用試験 (6月)
地方公務員上級採用試験 (6月)



企業研究会 (3月)

全学共通科目 (人間学)

各学部学科での基礎科目・専門科目

フィールドワーク・実習



副専攻科目

地域課題の解決につながる研究などを通じて、地域の将来を担う変革力を持った人材の育成を目指します。

近江楽士 (地域学) 副専攻

所定の単位を修得した修了生には、「近江楽士 (コミュニティ・ネットワーク・CN)」または「近江楽士 (ソーシャル・アントレプレナー・SE)」の称号を授与

近江環人 大学院・社会人対象

近江楽座